

施設適正配置に関する市民ワークショップ 【第4回】 結果のまとめ

八幡地域

H30.11.27

①市民会館について

参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none">・市民への貸出使用料については安くしてほしい・自主事業について、質の高い文化事業を充実させてほしい・郡上市総合文化センターのトイレ改修について、特に楽屋のトイレ改修が必要・歴史資料館など新しい公共施設が作られているが、施設再編にあたっては、そうした新しい施設に機能集約するなど、一体的に考えるべき
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none">・特に、子どもたちに対して質の高い文化と触れ合える機会を提供することは重要で、そうしたことにはお金をかけるべき・必要に応じて新しい施設を作ることはやむを得ないが、行政としては、作る前にまず既存の施設が活用できないかを検討することが必要

②生涯学習センターについて

参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none">・使用料に関して、使った分の電気代等のコストを適正に負担してもらうことに異論はないが、無駄な電気を使わないようにするなど、電気の大切さについて使用する人の思いが大事・受益者負担の適正化は必要で、軽減率も再検討すべき・使用料について、現在は冷暖房費として徴収しているが、これに電気代も含めれば良い・施設を使う立場としては、使用料が安い方がよく、過度の負担増は控えてほしい・程度の問題はあるが、多少の負担増で利用者が減ることはないと思う・施設を改修する場合には、使用していない人の税金も投入されることから受益者の負担増も可能ではないか
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none">・受益者負担に関しては、施設の使用に対して公的な役割があるかどうかで判断することが重要・前回までのとりまとめに対して特に異論がないことから、市が提案したとおり、生涯学習センターが「まちづくりのコーディネーター」としての役割を担っていくことなどの方向性に従い、検討を進めていく

③体育館について

参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none">・郡上市総合スポーツセンターは民間管理により利用の充実が図られているが、他の体育館で同様のことはしづらい。このため、ミニ体育館を含めて、自主事業のメニューを紹介するなどの支援が必要
-----	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・郡上市総合スポーツセンターは、1階のジムとプールは有料でも利用されるが、2階の体育館はあまり利用されていないことから、2階の利用促進が必要 ・2階の利用促進のため、周りをランニング等の周回コースとして改修してはどうか ・住民意識として、一般的なスポーツにお金を払う感覚はない ・有名なスポーツ指導者等を招いたり、プロの試合を開催するなどができるの良い ・学校単位では有名なスポーツ指導者を招いたりしている ・郡上市総合スポーツセンターは規模的に中途半端なため、興行ができる体育館を新たに作る ・体育館の利用促進に向けて、市内外にPRすると良い ・スポーツ合宿の誘致は行っているが、宿泊施設やバス、エアコン等の要望があり、郡上市では対応できない
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・質の高い文化と同様、子どもたちに対して一流のスポーツを見せることは重要 ・施設の利用促進に関して、行政はこれまで守りの姿勢が強く、拡大には積極的ではなかったが、これからは市外からを含めて利用拡大を図っていくことが重要 ・大規模改修に合わせて、中身を良くしていく検討が必要

④小中学校の地域活用について	
参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の建物に対しては、地元の愛着が強いと思うため、行政から呼びかけて地元の意見を多く聞くことが重要 ・八幡地域の学校はもともと小規模に作られており、複合利用は難しい ・音楽室をバンドに貸すことは、騒音の観点から難しい ・図書館を一般に利用できるようにするのは、管理上の問題がある ・廃校になった場合の後利用としては、部屋単位で民間に貸し出す ・廃校後は、更地にして売却する ・学校の建物が有効活用できれば、生涯学習センター等を減らせるのではないかと
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・複合利用した場合の安全確保については、管理人を配置する方法もあるが、大規模改修に合わせて、部屋の配置換え等を行い、学校利用と一般利用の区画を分ける方法もある ・生涯学習センターの機能を持たせるという意見もあったように、複合利用については検討していく方向でまとめる

【アドバイザーによる全体まとめ】

本日いただいた意見は、いったん私が預らせていただき、今後市と調整を進める中で、できる限り皆さんの意見を尊重していきたい。

施設適正配置に関する市民ワークショップ 【第4回】 結果のまとめ

大和地域

H30.12.10

①市民会館について

参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集約するのは良いが、それよりもソフト面の充実が大事で、それにお金をかけるべき ・市民の活動も変化してきており、若い人の意見をよく聞くべき ・10年、20年先の将来を考え、いつまでも7地域にこだわらず、できるだけ集約を進めながら、郡上市として一つになっていく機会をなるべく持つことが重要 ・高齢化も進む中で、集約したときに、そこまで行けるように交通の確保が重要 ・今ある施設をすぐになくすわけにはいかないが、耐震性や老朽化等を考えて、徐々に減らしていくことはやむを得ない ・やまと総合センターは今後も残っていくと思うが、利用頻度の低さが問題で、今後魅力あるイベントを企画するなど利用を高める取組が重要
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通に関しては、現在市で地域公共交通網形成計画を策定し、対応を検討しているところであるが、市民の皆さんには公共交通をぜひ利用してもらいたい ・市民会館を集約することに関しては、概ね理解が得られているようで、自主事業についても質の高い文化に触れられるよう充実を図ることにお金をかけ、そのために一定の受益者負担も必要ということできるとまとめる

②生涯学習センターについて

参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大和生涯学習センターの廃止はやむを得ないと思う ・生涯学習センターの「生きがい」という面の機能維持は重要 ・大和生涯学習センターの廃止に際しては、必要な機能をいかにスムーズに他の施設に移行できるかが重要 ・大和総合学習センターで子育て団体が主催して映画の上映会を行ったことがあるが、そうした子育て中のお母さんが気軽に集まれる場所は確保したい ・生涯学習といっても実際は個人的な活動が多く、他の施設でもできることなので、生涯学習センターが各地域に一つ必要か疑問に思う ・生涯学習センターには色々な機能があるが、必ずしも一つの施設に移行する必要はなく、機能ごとに考えていける。そのためには交通整理できる主体が必要で、その主体が中心となつてうまく運営できていくと良い ・都市部であれば民間活力の導入も可能だが、郡上市ではそれが難しい。そうした地域事情も考慮して慎重に進めるべき ・生涯学習センターの機能として一番大事なものは「人の交流の場」で、それにはある程度の広さが必要なため、それに該当する施設があるか疑問 ・会議室を借りることしかないので、他の機能のことは分からないが、会議室だけ考え
-----	---

	<p>れば他の施設で十分に対応が可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機能移転にあたって、現在の利用形態を踏まえ一つひとつ考えていく必要があり、やまつつじや振興事務所等を含めトータル的に検討することが重要。その際、大和地域では振興事務所周辺に主要な公共施設が集積しているため、この近辺で完結するのが理想 ・大和地域では、社協支部を設けて活動も活発化しているが、それでも社協が中心となって進めることはなかなか難しい
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習センターの機能は1ヶ所に集めなくても、コーディネーターがしっかりと運営していれば十分対応できる。そうしたことを計画策定後も、振興事務所と連携しながら、社協が主体的に議論していただきたい ・生涯学習センターについては各地域に拠点の一つ配置することなど、市の案に沿ってまとめていく

③体育館について

参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の案に概ね同意 ・古い体育館を廃止することには同意で、利用者にはある程度我慢してもらうことも必要 ・廃止はやむを得ないが、避難所としての機能をどうするかは真剣に考えるべき ・近年特に子どものスポーツ離れが進んでおり、施設が減ればさらに拍車がかかる恐れもあるため、今ある施設は有効に活用していく努力が必要 ・避難所に関しては、お寺などを使っても良いのではないか ・体育館で利用の少ない平日昼間の活用に関して、民間の知恵や意見を聞き、スポーツ以外の利用にも広げていければ、使用料収入も見込めて良いと思う ・体育館は、休日夜間の利用が結構多く、また通常屋外で行うスポーツでも冬の間体育館を使用することもあり、施設が減ったときに対応できるか疑問に思う ・拠点となる体育館が、市民の健康増進の拠点として有効に利用されると良い
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館は避難所になっているから廃止できないというのは全国的な話であるが、それでは再編が進まない。避難所に指定する施設が廃止になった場合に、その後の対応をどうするかは防災担当部局が検討すべきことであり、お寺など民間の建物も含めて別途確保していく必要がある。避難所の確保について、計画書の冒頭にそうした内容を明記していく ・体育館の民間利用に関し、本来目的を損なわない範囲であれば問題ないが、スポーツ以外の利用は難しい ・全体として、体育館の集約化には理解が得られたものとして、市の案に沿ってまとめていく

④小中学校の地域活用について

参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none">・市長と語る会で、若いお母さんから「インスタ映え」や「起業したい人に貸す」など、廃校後の利用に関して前向きなアイデアが多く出されたことが印象的で、そうした夢のあるような統廃合となると良い・「プレーパーク」として、子どもたちが生き生きできるように、山なども使って遊ぶ取組を行ったりしており、そうした若い人たちの意見を聞いて活用していけると良い・学校がなくなると寂しいという方でも、ボランティア等で地域の子どもと触れ合える場に参加してもらうなど、統廃合を前向きにとらえられるようになると良い・子どもを持つ親としては、児童の持ち物等を一般の人が触ることのできる状況には抵抗感があるし、敢えて学校を地域活用しなくても良いのではと思う・大和地域では学校統廃合に対する意識が変わってきており、早く市としての結論を出してもらいたい。それがないと、残る学校や廃校後の学校をどうするか議論できない
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none">・学校の統廃合は、子どもたちの教育環境がどうあるべきかを考えることが最も重要で、あまり拙速に判断するのもどうかと思う・学校の地域活用について必要ないとの意見もあつたが、他の施設の集約化等で足りなくなる恐れがあるときなどには活用も考えられることから、市の案に示したように、地域活用を検討していくという方向でまとめる

施設適正配置に関する市民ワークショップ 【第4回】 結果のまとめ

白鳥地域

H30.12.11

①市民会館について	
参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化は大切なので、ただ施設を減らすというだけでなくその後のことを考えてほしい ・大事なのは中味を充実させることで、市民にどんな文化を鑑賞してもらうのか、生涯学習として勉強してもらうのかなどを考えることが必要 ・文化に関し、郡上らしさなどを踏まえてどこに絞り込むのかを決めた上で、施設をどうしていったらいいかを考えるべき ・今回のWSでは自治会長等が集まって意見を述べたりしているが、文化施設、体育施設とも、それぞれで活動している人たちの意見も聞く必要がある ・集約することによって施設に行きづらくなる人たちに対して、交通の確保が必要
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・民間活力の導入に関して、現状として行政には企画運営の力が不足しており、民間の力を借りながら、将来的に行政が力をつけていくことが望ましい ・市民の意見を聞く上で、ユーザー（利用者）とオーナー（納税者）の双方の立場に分けて捉えることが重要で、本WSでは主にオーナーの立場として意見をうかがっている。年明け1月に、市でユーザー側の意見を聞く場を予定している。 ・公共交通に関しては、現在市で地域公共交通網形成計画を策定し、対応を検討しているところである ・市民会館を集約することに関しては、概ね理解が得られたということで、市の案に沿ってとりまとめる

②生涯学習センターについて	
参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集約化の方向には概ね同意で、市民会館と同様に中味の充実が重要。集約後に必要な機能が満たされていて、そこでの活動が一層の向上につながる施設になればと思う。そのためには資金も必要で、こうしたことも考えながら施設再編を進められると良い。 ・ふれあい創造館を地域づくりの拠点として、コアとなるスペースやパソコン等の設備が充実していれば、集約化により距離が遠くなってもみんなが集まり、新たな交流が生まれ、刺激し合えるようになるのではないかと思う ・拠点施設に事務員を常駐させるのであれば、その費用も利用者が負担すれば良い ・事務員の常駐に関して、振興事務所の職員の削減が進む中で、人員が確保できるのかという懸念がある ・WS参加者は施設の集約化に対してある程度理解できていると思うが、一般の市民にも広く現状を理解してもらう取組が必要。郡上市は他の自治体に比べて公共施設が多いという説明があったが、それを踏まえると、施設の集約化によって現状よりは減るが、他自治体と比べると施設が少ないということにはならない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザー、オーナー双方の意見を聞きながら中味の議論を進める過程の中で、建物をどうするかを考えていくことが肝要で、建物だけを先行して検討すべきではない ・財政状況を踏まえると、思い切った改革をして施設を減らすことが必要 ・施設を集約したために住民サービスの質が低下してはならない ・高齢化が進む中で、公共交通の便の確保が大事 ・高校生なども含めてなるべく広く意見を聞きながら再編を進めて、「白鳥の施設はいいなあ」と言われるくらいになると良い ・ふれあい創造館は、避難時のことを考えるとトイレの数が少ないため、駐車場に防災トイレを作ってはどうか ・公民館の仕組みが旧町村ごとに異なることから、地域によって意見も違っていると思うが、市全体として一定の考え方をもって再編を進めていくことで、地域間の差が縮まっていくのではないか
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点に機能を集め中身を充実させることで、新たな交流や刺激が生まれるというのは、まさに郡上市に求められる地域経営の仕組みで、さらに拠点施設には事務局機能も持たせ、そこに事務員を常駐させることも考えられる。そうした人員の確保や振興事務所の役割等も含め、役所の仕組みや体制づくりを2～3年程度でやるべきだと思う ・施設の再編によって住民サービスの低下を招かないことが大前提 ・生涯学習センターについては各地域に拠点を一つ配置することなど、市の案に沿ってまとめていく

③体育館について

参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状でも利用が重なって予約が取れないことがあり、集約後もそういう人たちが不便にならないようにしてほしい ・避難所の機能に配慮して再編を考えてほしい ・石徹白は特別な地域事情があることを考慮してほしい ・休日・夜間に利用が集中しているが、平日昼間に活動できる団体があれば、日時を変更してもらうような工夫も必要 ・平日昼間でも利用のある総合スポーツセンターややまと総合センターは、ジムやプールがある。白鳥でも同様の需要があるか不明だが、そうしたことも利用者の意見を聞いたりして、体育館の再整備を進めてほしい ・代替可能なものは小中学校の体育館等を利用すればよいが、ビームライフルのように特殊な種目は施設が限定されるため、そうした競技が継続できるよう考慮すべき ・郡上市の基本方針として、文化が大事か、健康が大事かと考えると、やはり健康が優先されるのではないかと思う。防災面も考慮し、思い切って大きな体育館を作ってはどうか。市外の人も利用したいと思われるような「攻め」の姿勢も重要ではないか。 ・自治会長会としては、白鳥に体育館は絶対に必要という意見である
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・石徹白が特別な地域であることは認識しており、再編にあたっては改めて地元と相談しながら進める必要がある

	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の体育館を集約して、新たな施設を作るという考えもあるが、その際にも利用されるためのソフトが重要で、民間のプロデュースの力を借りるとか、行政や住民の方々がどう関わるのかなどを含めて検討していく必要がある ・全体として、体育館の集約化には理解が得られたものとして、市の案に沿ってまとめていく
--	---

④小中学校の地域活用について

参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・那比の特別支援学校は公民館と併設しており、運営もうまくできている ・廃校後の施設利用としては、合宿や民間のビジネスとしてサテライトオフィスなどに使えるのではないか ・学校は地域の中心的位置にあるため、空き教室があれば、他の施設との関係の中で、活用を検討すべき ・学校についても、ユーザーの意見やアイデアを聞くことが必要 ・学校の施設開放はいいことだが、土日や夜間の利用となると、先生方の負担が増えるのが心配 ・家庭科室や技術室等の特別教室は道具なども揃っており、一般の家庭ではしばらくいことができるため、需要はあると思う。それが進んで、地元の高齢者が竹工作などを子どもたちに教えたりして、交流が生まれることも期待できる。また、一般の人に学校の施設が使いやすいことを知ってもらえれば、廃校になった場合でも利用が継続できるのではないか。 ・セキュリティの確保は、施設を改修すれば可能かと思うが、そのお金をかけたとして、利用する人がいるかどうか疑問 ・頻繁に学校に出入りをして、子どもたちに顔を覚えてもらうことがセキュリティにつながるのではないか ・学校はいつまでも記憶に残る施設なので、廃校になっても建物は残してもらいたい。学校の体育館が残れば、他の体育館が廃止になっても、近くで利用できる。 ・同じ白鳥地域の中でも、まちなかと石徹白地区等では事情が異なる。例えば、高齢者が集う場所が、まちなかではふれあい創造館、石徹白地区では学校というように、地域事情に応じて考えるのがいいのではないか。 ・子どもの数が減っても、クラス数が変わらなければ空き教室はできないが、既存の教室を仕切り分けて使うなど工夫すれば、空き教室ができる
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・複合利用した場合の安全確保については、大規模改修に合わせて、部屋の配置換えを行うなど工夫すれば対応できるし、そうして区画を分ければ、管理も学校が行う部分と地域が行う部分が明確になり、先生方だけ負担が増えることはない ・いただいた意見は教育委員会に伝え、統廃合の検討の中で、地域利用についても考えていくという方向でまとめる

施設適正配置に関する市民ワークショップ 【第4回】 結果のまとめ

高鷲地域

H30.12.7

①市民会館について

参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集約は必要だと思うが、集約する場合は、南部と北部で分けるのか、または人口比率で分けるのかなどを検討すべき。 ・大きな方向性として自主事業の充実と民間活力の活用はどの地域においても共通し、当然だと思うが、もう少し殻を破った方針があると良い。機能の集約は高鷲地域での集約と市全体の集約があり、市全体の議論は我々には難しい。 ・我がまち（地域）との意識があることから、地域に対する意識も大切。 ・議論をする上で、市の結論を提示した方が効率的。 ・2年前の地域協議会において高鷲庁舎の解体について話し合ったが、その後すぐに高鷲庁舎の耐震補強工事が始まったことから、既に決まっていることは教えてほしい。 ・ワークショップで市の方針に反する意見があった時、市として取り入れる体制があるかが疑問。 ・たかす町民センターのように、建物の耐震性はあるが利用率が低く、またホールの音響施設の改修が必要で費用がかかる施設については、このまま使い続けるのが良いか検討が必要。以前、高鷲庁舎の機能をたかす町民センターに移転してはとの意見があったが、耐震補強が行われたことにより、庁舎の活用方法を検討しなければならなくなった。 ・高鷲地域では公共施設の方向性がちぐはぐの状況である。 ・ぽぶらの家はいろいろな福祉機能が複合され、年齢を超えた交流ができる良い施設であり、このような施設は各地域に必要であるが、文化施設等は各地域において必要が無いのであれば集約して良い。 ・長期で文化施設を考えるのであれば、学校の統廃合と連携して検討することが必要。
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・集約した場合、交通手段の確保、地域でのバランスの調整が必要であることから、行政で検討し、方針が決まれば話があると思う。 ・運営に関しては、民間活力を利用してより良い文化的な事業を実施することが必要。 ・今回は総論としての議論であり、具体的なことは今後検討するものであることから、その時はまた皆さんとの議論することが必要。 ・今回4種類の機能の施設の検討を行っているが、それ以外の各地域の個別の施設の再編については、また改めて意見をうかがう。 ・市民会館については、現在5カ所あるものを2～3カ所に集約する案について、高鷲地域のワークショップにおいて特に異論はないとしてまとめる。

②生涯学習センターについて

参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習センターは、高鷲地域に施設が無いのであれば、1カ所でも2カ所でも同じである。ITが進み、施設がいらぬ時代が来ることも考えられ、施設よりも実施する事業を考えることが重要。 ・生涯学習機能は地域の枠にとらわれず、例えば広域な観点から大学との交流等、長期的に考えることが必要。 ・生涯学習については、旧町村毎に施設が無いと地域での人間関係がなくなることから、地域毎に残すことが必要。参加が少なくても、人間づくりのために必要な施設であるとの考え方もある。 ・巡回バスを運行するなどして人を集める必要がある。オリンピック選手を育成するような特徴的な利用方法等を考えることが必要。 ・民謡保存会等の夜間利用のために、庁舎の2階の夜間開放、またはたかす町民センターの存続が必要。 ・生涯学習機能からたかす町民センターの施設の廃止は考えられない。また、高鷲地域に必要な機能をここに移転することが必要。 ・開拓記念館を観光に利用する等、たかす町民センターを利用する方法を考えることが必要。
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が参加する事業も必要だが、少人数でも重要な事業があることから、今後行政として考えていくことが必要。 ・高鷲地域には、たかす町民センター及び支所の2階に使える空間があり、地域協議会から実施したいことの提示があれば、行政がどこで行えば良いのかの検討が可能。 ・例えば庁舎で音の出る練習などを行うことは問題があり、機能の種類によっては複合できないものがある。 ・高鷲地域にどんな機能が必要かを今後議論していくことが必要。

③体育館について

参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要ない体育館は廃止が妥当。 ・大きな空間を必要とする行事が減ってきたことから、コンパクトな施設を有効に利用していくことが必要。 ・収益性の高い成人を対象にした事業であれば、体育館の統廃合は良いと思うが、小中学生等を対象に考えると施設が遠方にあると利用しづらい。最近の動向として、規模ではなく施設の充実や交通の利便性が良い立地条件が重要になっており、このことに考慮した整備が必要。 ・継続利用が可能な施設は継続し、利用が出来なくなった時の施設廃止は仕方がない。 ・市が進めるスポーツコミッションから見て、施設の要不要を判断するという事もあるのでは。また、学校施設としての側面がある体育館やグラウンドは学校行事との兼ね合いがあり、民間で思うように使えないことも多い。 ・決まった同じ団体の利用があるのかも知れないが、皆が体育館を使いたい様ないい時
-----	--

	<p>間帯に使用できないという問題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の施設を廃止することにより、その施設で行われていたビームライフル等の練習を行う場所がなくなることから、競技種別への配慮が必要。 ・競技の種類によって体育館のつくり方が異なることから、郡上市としてどの競技に力を入れるかが問題。 ・体育館に限らず、郡上市全体の施設の空き情報がわかり、予約ができるシステムの構築は難しいことではなく、また各施設の利用率の把握や利用者のニーズを聞くことも出来ることから、早急な整備が必要。
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・全市的な大会と、全国的な大会できる場所があることが望ましく、基幹となる体育館2カ所で良いのか、3カ所目が必要であるのかの検討が今後必要。 ・市内の全施設の予約受付やその状況を把握するシステムがなく、その構築は簡単であり、また安価にできることから早急な整備が必要。そのシステムから各施設の状況が把握できることから、今後、施設のあり方を検討する上で有用である。

④小中学校の地域活用について

参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が減っており、今後も減ると思われるが、障がいをもつ子が増えて、その教室が必要となることから高鷲小学校は他の用途に使うスペースは無い。児童数の減少から統合はやむを得ず、民間企業への貸し出しも必要。統合する場合、可能であれば施設を新築して2階を学校のスペースとし、1階を障がい者や乳幼児の施設等のスペースとした複合的なものにすることが理想。 ・高鷲北小学校の民間企業への貸し出しは妥当。 ・中学校の部活の部員数が減り、また小学校でも児童数が減り競争意識がなくなってきたことから、早い段階で学校を統廃合し大人数での教育を行うことが望ましい。学校については早急に方針を出して欲しい。 ・子どもの減少により学校の統廃合が近い将来に必要。中学校においては部活の部員数の不足により生徒が望む部活ができないことから、広範囲での統廃合が必要。学校の空いた施設は地域での利用を考えることが必要。
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の統廃合は避けられない状況にある。また学校には空きスペースはあり、今後増える状況である。学校は年間220日しか稼働しておらず、空いている時間がある。特別教室等は地域の利用が可能であり、そこを何に使うかを地域で考えることが必要。また学校の機能が廃止された場合は、どのように使いたいかを地域から提案することが大切。全てを民間利用することは最終的な局面であり、地域で使うことを考えて、提案することが必要。

施設適正配置に関する市民ワークショップ 【第4回】 結果のまとめ

美並地域

H30.11.28

①市民会館について

参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集約化はやむを得ないが、それによって不便になるのは問題で、集約化して良かったと思われるようにすることが重要。集約するというだけでなく、代案を示してもらえると良い。 ・集約によって、交通の問題などで施設が使いづらくなるのは残念 ・多くの市民が施設の内容を知らないと思うので、もっとPRして施設が大事なものだと感じてもらうことが重要 ・第1回では、集約化はやむを得ないという前提で議論をした印象であるが、だからと言って集約化を認めているわけではない。集約化となると、どうしても八幡と白鳥が中心となり、美並はより不便になってしまう。地域の平等性を考慮して進めてほしい。 ・利便性を考えると、集約化を進める中でも、日本まん真ん中センターは残してほしい ・受益者負担に関して、現在は学校行事等で子どもたちが無料で使っているが、ある程度は学校や親が負担しても良いのではないかと思う ・ある程度の受益者負担は仕方ないとしても、やはり安いに越したことはない
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・集約化して不便になるのは本末転倒なことで、交通の便なども含めて総合的に判断して進めていく必要がある ・集約化がやむを得ない状況の中で、施設を有効に使っていくことが重要で、民間活力を活用して自主事業を充実させる考え方もある。民間の運営では、質の高い文化事業を1ヶ所だけでなく、自治体内の複数箇所で開催している例もある。では、郡上市で民間活力が使えるかという点では、サウンディング型の市場調査を実施し、事業者に対して参入の意向を確認することが考えられるが、私の感覚としては、民間参入の可能性はあると思っている。 ・受益者負担に関しては、イニシャルコストとランニングコストに分けて考える必要があり、イニシャルコストは行政が負担するが、ランニングコストは利用者に相応の額を負担してもらうということである。その際、施設の使用に対して公的な役割がある場合は、一定の配慮も必要。 ・市民会館については、集約化はやむを得ない中で、可能であれば民間活力も活用しながら施設を有効に利用していく、また、ある程度の負担増についてもやむを得ないといった方向でまとめる

②生涯学習センターについて

参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南部・北部コミュニティセンターは、もともと幼稚園として作られたもので、使いづらく老朽化も進んでいるため、見直しもやむを得ない
-----	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・日本まん真ん中センターは、利用が少ないものの、現在の利用者に配慮し、その人たちが良かったと思えるようにしてほしい ・南部・北部コミュニティセンターは、建物の問題のほか、場所としても夜は怖いくらいで、人を集められるような環境にない ・使い勝手などを考えると、日本まん真ん中センターに機能を集約することに賛成 ・集約化がやむを得ない中で、「拠点」とはどういうものか考えることが必要 ・先日初めて公民館活動として断舎利の講座に参加したが、歴史や文化など硬い内容の講座ばかりでなく、みんなが参加したくなるような事業があると良い ・譲渡する施設について、地元で運営できるかが心配 ・施設がなくなると、避難の際に心配 ・コミュニティがどうあるべきか、また、拠点のあり方などについても、行政から提案がほしい
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域の拠点となる施設があり、その上でサブ的な施設があるのは良い ・拠点をどういうものにしていくかは、それぞれ地域協議会が主体で考えて行政に提案し、行政はその支援を行う形が望ましい ・地元で譲渡する施設について、条件整備は行政が考えるべきで、地元が受け入れできない場合は廃止の方向となる ・いろいろと意見をいただいたが、生涯学習センターについても集約化はやむを得ないながら、概ね市の案に同意をいただいたという方向でまとめる

③体育館について

参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の体育館も十分使うことができ、集約化は妥当 ・使用料に関して、市民は無料となっているが、使用する上でかかる経費は使用する人が負担すべき ・美並総合体育館では、サッカーで岐阜から来てもらって利用しており、ラグビーなど他の競技でもそうしたことができると良い ・使用料が無料だからと言って、器具が更新されないことや、シャワーが設置されていないのも良くない。使用料を適切に徴収して、それらの問題解消の費用に充てることで、利用者も増えるのではないか。集約化を機に、こうしたことを含めて利便やサービスの増進を図るべき。 ・集約化には賛成で、小学校の体育館をもっと使えるようにするための仕組みが必要 ・集約化に合わせて、その分、体育館の質を高めるなど良くなったと思えることが必要
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・費用負担の適正化は、サービス向上にも役立つことを念頭に検討することが必要 ・利用のしやすさという点では、インターネットで予約できるシステムなどを行政で考えてもらいたい ・全体として、体育館の集約化には理解が得られたものとして、市の案に沿ってまとめていく。

④小中学校の地域活用について

参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none">・人が集まり多様な交流が生まれそうな期待があり、学校の地域活用には賛成・親の立場として、主にセキュリティ面から、地域活用には違和感を覚える・そもそも他の公共施設が十分に利用されていない中で、学校を使うだけの需要がないのではないか・パソコン室や音楽室、家庭科室などは、使えるということになれば利用はあると思う・学校として使用されている状況では、感覚的に心配で活用は難しいという印象だが、将来廃校となった際には、それぞれの部屋で色々な目的を持って利用したいという人が出てくるのではないか・あくまで「学校の主役は子ども」という認識で、活用を考えていくことが大事・廃校となった場合の後活用は、自分が通った学校が残るという面で賛成・学校は子どもが親しみやすい施設であり、他の公共施設で子ども向けに行う事業を学校に出向いてできるようになると良い・地域の子どもの数が減る中で、地域の大人と子どものつながりができると良い
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none">・学校は施設規模も大きく、子どもが減ってスペース的に余裕が出てきている中で、それらを有効に活用していくことが重要・複合利用した場合の安全確保については、大規模改修に合わせて、子どもの専用部分、一般の専用部分、共用部分に分けて改造することで対応が可能・複合利用については、市の案に沿って検討していく方向でまとめる

【アドバイザーによる全体まとめ】

本日いただいた意見は、いったん私が預らせていただき、今後市と調整を進める中で、できる限り皆さんの意見を尊重していきたい。

施設適正配置に関する市民ワークショップ 【第4回】 結果のまとめ

明宝地域

H30.12.18

①市民会館について

参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美濃市や関市は文化的な催し物を定期的に行っていることから、郡上市においても積極的に行うことが必要 ・2カ所に集約した場合、利用率は上がり良いことであるが、駐車場や移動手段の確保が必要 ・集約した場合は、施設の収容能力を上げることが必要 ・市外の人に来るようなイベントを開催し、運営費等を確保する ・2カ所に集約をすると自分の地域にもとの意見が出るので、1か所で良いのでは ・人口減少を考えると、各地域に1カ所の施設を維持することは不可能 ・集約により施設が遠方となり利用者の減少が考えられるので、参加者を増やすイベントの開催が必要
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生の子どもに質の高い文化に触れる機会をつくることも必要であり、ノウハウが無いのであれば、まずは民間の力を借り、実績ができれば行政が行う ・郡上市には560の施設があり、人口減少、財政状況を考えると集約することが必要 ・市民会館は1～2か所とし機能を集約し、より良いものを市民に提供することが必要 ・市民会館を集約することに関しては、概ね理解が得られたということで、市の案に沿ってとりまとめる

②生涯学習センターについて

参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振興事務所に空部屋があり、利用することが必要 ・借地に建つ施設は費用負担が大きいことから廃止が望ましい ・明宝コミュニティセンターは老朽化により、今後の修繕費等を考慮すると廃止が妥当 ・生涯学習センターは地域に1つは必要 ・明宝コミュニティセンターを今後も利用するのであれば改修が必要 ・機能は必要であることから、今後も利用できる施設に機能を移転、集約し多機能な施設とすることにより、建物を減らして行くことが必要 ・建替える場合は、適正規模とする ・地域に多目的ホールが最低1カ所は必要 ・会議等は他の施設を利用することが可能 ・小中学校の空き教室については、児童生徒数が減少傾向であるため、セキュリティを確保し、生涯学習機能として利用することが必要
-----	---

アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・施設については費用対効果を考慮し、改修するか適正規模での建て替えをすることを考えることが必要 ・生涯学習センターについては各地域に拠点の一つ配置することなど、市の案に沿ってまとめていく
--------	--

③体育館について

参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツクラブが利用できる設備の整ったスポーツ施設が必要であり、これは郡上市に1カ所あればよく、その他の利用は学校の体育館を利用する ・学校の体育館は学校での利用があることから、ある程度の規模の体育館が地域に1つは必要 ・例えばボルダリングの施設を作るなどし、中身の充実を図り、市外の利用者がある様な整備が必要 ・土間付体育館は、健康づくり、レクリエーションの場として利用されていることから、改修等を行い継続することが望ましい ・生徒が減少し学校のクラブ活動が成立せず、スポーツクラブに参加する状況にあることから、このような現状を考慮した検討が必要 ・現在ある体育館は使えるまで利用し、今後の学校統廃合の状況を考慮した体育館の計画が必要 ・健康増進等に利用しやすい身近な適正規模の施設が必要であり、また運動施設としての利用以外でも雨天時のイベント会場としての利用が可能 ・現在ある施設について、避難所機能、雪対策機能があり、経費があまりかかっていないことから存続が望ましい
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・全市的、全県的な大会が開催可能な体育館を市内に1～2カ所配置し、各地域には健康増進等のための地域に密着した活動ができる施設を1カ所配置することに意見を集約することができた ・管理運営については、利用の増進の検討が必要であり、体育協会が指定管理者になるなどし、利用の推進を図るとの意見が集約できた

④小中学校の地域活用について

参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用部分の分離、セキュリティ対策ができれば、学校の特別教室等の夜間利用は可能であり良い考えである ・学校のパソコン教室は公民館活動の講座で利用してきたこともあり、今後も公民館活動での利用を考えている ・自宅で書道教室を行っている人があり、学校が利用できると良い ・学校利用は、児童生徒の学習環境を第一考えるべきである ・教室の地域での利用は地域で子どもを育てる考え方につながり、教育環境の向上とな
-----	---

	<p>る利用が望ましい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に保育園を併設することが必要 ・学校の利用は、先生の負担にならないように配慮することが必要
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・学校利用はセキュリティの確保が必要 ・管理体制は先生の負担にならない利用が必要 ・方向性としては活用を図ることとし、具体的な利用は学校毎に個別の検討が必要であることから、統廃合や大規模修繕等を考慮し、教育委員会の方針との整合を図りながら、地域住民と検討を行い、長期的な観点から、時間をかけて進めていくことが必要

施設適正配置に関する市民ワークショップ 【第4回】 結果のまとめ

和良地域

H30.12.19

①市民会館について	
参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和良地域の人が八幡地域に行くには不便であり交通手段の確保が必要 ・不要な施設が負の遺産として残ることは問題であり対応が必要 ・財政状況等を考えると、今の子どもたちに負担を残すこととなり集約は必要 ・集約により利用しづらくならないように、バランスの良い集約が必要 ・民間企業が参入することにより、行政ではできない新しい管理運営ができる ・民間企業の参入により入場料が高くなることが考えられ、市民が公平に参加する機会が損なわれるおそれがあることから、市の補助等による適正な入場料の確保が必要 ・市民のそれぞれのニーズに合わせた、幅広い、多様な催し物を開催することが必要 ・集約することは、利用率が上がるなど効率的である ・貸館としての機能だけでなく自主事業・イベントを開催する機能も必要 ・集約は、行きやすい場所にあり、利用しやすい施設とすることが重要
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・市民会館を集約することに関しては、理解が得られたということで、市の案に沿ってとりまとめる

②生涯学習センターについて	
参加者	<p>○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和良町民センターは、建築当時は先端の施設であったが、バリアフリーになっていないなど時代の変化に適合していない ・生涯学習機能は地域に必要であるが、和良地域の人口規模を考えるとそれに見合った対応が必要 ・地域の人口を考慮すると和良町民センターは規模が大きく廃止が妥当で、適正規模の施設の配置が必要 ・郡上市全体を考えて、地域毎で違いのない活動拠点としての機能を確保し、地域の人口に見合った規模の施設を配置することが必要 ・生涯学習機能は地域ごとに必要であるが、その機能を他の施設に移すことができれば、和良町民センターを廃止とすることも考えられる。必ずしも生涯学習機能が現在の町民センターにある必要もない ・生涯学習機能は7地域それぞれある必要はない
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習機能は各地域に必要 ・地域の人口規模にあった適正規模の施設の集約が必要 ・和良地域に利用可能な施設が多数ある。しかし、それぞれの施設が十分に利用されていないことから活用する必要がある、それらを利用することにより、施設は点在していても地域として生涯学習機能は確保できる

	<ul style="list-style-type: none"> ・今後検討する上で地域協議会が中心となるが、他の組織等と一緒にあって、地域経営を考えることが必要
--	--

③体育館について	
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし ・和良町民センター体育館は、以前は利用されていたが、人口減少等にもともない利用されなくなったことから、スケートボードやボルダリング等、若い世代が市外に行かなくても利用できる遊び心のある施設にすることが必要 ・受益者負担は必要であり、受益者負担を行うのであれば、それに見合った施設の充実が必要 ・体育館は気軽に利用できる施設であり、そのための施設の充実が必要 ・スポーツ推進員を活用した事業の展開が必要 ・体育館があれば十分で、スポーツジム等の利用は下呂市等に行けば良い
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・郡上市では、施設として場所は提供するが中身が充実していない状況にある。施設の貸し出し利用であれば、学校の体育館でも対応が可能であるが、器具を整備してスポーツジムとしての利用や健康づくり教室の定期的な開催などにより市民の利用を増進、または指導者育成などの講座の開催などに取組むことが必要 ・各地域に適正な体育館を配置し、市民の健康づくり、競技人口を増やす指導者の育成などを推進するために施設の充実を図る必要があり、そのために一定の費用負担も必要であるとのことでこのワークショップの意見をまとめる

④小中学校の地域活用について	
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ○前回までのとりまとめについて、全員特に異論なし ・児童生徒と地域住民、高齢者等との交流の場として学校の利用を図る ・地域と学校との接点づくりのための学校利用を図る ・郡上東中学校の高齢者の利用には、交通手段の確保が必要 ・学校利用を実現するには、児童生徒、地域、先生が一緒になって考えることが必要 ・検討する上で、学校利用を認める条件、許容範囲を教育委員会から提示してほしい ・学校は設備が充実しているので、授業に支障のない範囲で利用したい ・学校は学校教育でしか使えないとの概念を取り払って、セキュリティ対策を考慮し、学校教育とのエリア、時間を分離して利用することが必要
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・学校利用において重要なのは、教育委員会及び学校との調整であり、そのために市民と行政が一緒になって安全対策を考慮して考えていくことが必要である。また、教育委員会及び学校との調整には、どの様な利用をするか具体的に提案することが必要 ・学校利用に関しては、大規模改修や建替えの時に学校教育専用スペース、市民が利用するスペース、また共用で利用するスペースを明確に区分し、セキュリティを確保した整備が必要